子育てに寄り添う環境づくりを

他の自治体を参考にしていく

町公共施設では育児をサポートする環境が母親を前提に設計されており、父親が育児に関わる際に不便を感じるという声がある。男女の区別なく利用ができるようになる施設整備について。

問 男性個室トイレのベビーチェア設置の考え。

答 町長 重要性は、認識している。設置できる場所の確保など課題もあるため、今後検討していきたい。

問 男性トイレにもおむつ交換台の設置が必要。

答 町長 設置するための拡張スペースの確保が必要。各施設の多目的トイレに整備してあるものを、有効に利用していただきたい。

問 母乳による胸の張りを我慢することなく町公共施設で安心して「授乳と搾乳」ができる施設整備の見解。

答 町長 子育て支援施策の推進としても、考えなければならない。他の自治体の事例などを参考に、子育てに寄り添う環境づくりに努めていく。

乳幼児を抱える家族が安心して利用できる場所の提供マーク（出典：東浦町HPより）

都築（つづき） 清子（きよこ） 議員
（公明党）

予防医療の支援と推進

近隣市町の動向を見て検討

予防医療は病気の発症を予防するほか、健康診査・がん検診により病気の早期発見・治療を促し重症化を防ぐ。「生活の質」向上につながり、積極的に推進する意義は大きい。

問 HPV（注）検査は、子宮頸がん検診で採取した検体を使って調べることができる。子宮頸がん検査に、この検査の項目を加える考えは。

答 町長 現在の体制では運用管理が難しく、課題があるため考えていない。

問 HPVウイルスによる男性への感染症リスクの認識と、男性へのワクチン接種公費助成の見解。

答 町長 男性特有の陰茎がんや尖圭コンジローマなど多くの病気の発生にも関わっており、女性だけでなく男性にも感染するウイルスだと認識している。

公費助成については近隣市町の動向を見ながら検討していく。

問 RSウイルス感染症（注）による重症化リスクの認識と町民への周知、啓発は。

答 町長 生後6か月以内のお子さんや基礎疾患のある高齢者、免疫不全者が感染した場合は、重症化することがあると認識している。RSウイルスだけでなく、感染症の流行の情報を得た際には、ホームページや母子モなどを使って周知していく。

問 胃がんの主な原因である「ピロリ菌」の検査を胃がん検診に加える考え。

答 町長 現在のところ実施する予定はない。

問 育児世代の主に20歳～40歳代のがん検診の受診率。

答 町長

子宮頸がん	17・1％
乳がん	15・4％
大腸がん	10・9％
胃がん	3・3％
肺がん	18・7％

問 育児中の保護者のがん検診時、子ども同伴の受診スペース確保や、保護者優先の予約枠を設けるなどの考え。

答 町長 保健センターに新たなスペースを設けることは難しい。現在は、保健こども課の職員が一時的にお子さんを預かるなど、臨機応変に対応している。

＊HPV　ヒトパピローマウイルス
主に性器官の皮膚接触により感染する。
がん等を発症させるリスクが高いとされている。

＊RSウイルス感染症
呼吸器感染症。風邪のような症状だが抗ウイルス薬がなく、症状をやわらげる対処療法しかない。

5 ジェンダー平等を実現しよう
ジェンダー平等を達成し、全ての女性及び女児の能力強化を行う

11 住み続けられるまちづくりを
包摂的で安全かつ強靭で持続可能な都市及び人間居住を実現する

3 すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人々のけんこうてきな生活を確保し、福祉を促進する